

訪問看護ステーションりん

那須郡那須町寺子丙2番地129

施設アピール

那須町に唯一、1か所あるステーションです。

黒田原駅に近い、アクセスの良い場所にあります。那珂川町にも支所があり、「地域や家庭で暮らす人たちがその家庭に寄り添いたい」との思いから、その人に必要な医療的な支援や看護を自宅に届けて、安心して生活を送ることができるよう支援をしています。

施設の役割や特徴

本所と支所の2か所あることから、広範囲に対応しています。看護師も15名在籍しており、対象地区はすべてスムーズに対応できています。

高齢者、難病患者、終末期患者、医療的なケアが必要な子供たち（重症心身障害児、未熟児等）精神障害者等に対して、自宅での生活に必要な介護指導・支援、体調チェック、緩和ケア、小児分野での保護者へのレスパトケア等を行っています。

年に1回、総会を開催しており、看護師間の交流を深めています。支援内容の特徴として、「どこでも連絡帳」の活用が可能です。在宅での看取りの患者さんも増えています。

患者・家族が決めていたことが揺れ動くのは当たり前です。そんな時にも寄り添い、傾聴して思いを叶えてあげられるように、スタッフや支える人たちで情報を共有し、実践することを心掛けています。主役は患者さんです。

利用者保険割合
介護保険：7割
医療保険：3割

所長 永野あゆみ様
(看護師)

連携している主な医療機関

那須赤十字病院、国際医療福祉大学病院、白河厚生病院、立花医院、塩田医院、見川医院、塚原医院、赤羽医院、なすのがはらクリニック、橋本内科クリニック

ケアマネジャーに期待したいこと

私達はチームケアを大切にしています。医療保険で介入した時もケアマネジャーに初回の看護計画書を送っています。訪問看護師の支援内容を確認していただき、情報の共有を図って介入していただけるとういことです。紙面上で伝えること、実際の状況にスリが生じていることもあり、一緒に共有することで、利用者さんの安心につながり、信頼の輪が広がるのではないのでしょうか。



物静かな中に、看護に対しての芯の強さを感じます。こんな看護師さんだったら、話を聞いてもらいたい！相談にのってくれそうと地域からも信頼が深いと思います。

また、利用者の方が入院した場合、入院中の様子を教えていただけると助かります。退院間近に連絡がくることがあるので、退院後の支援をスムーズに行うためにもその都度情報交換できるといいですね。

このコロナ禍で、病院側から情報収集するのも大変なことだとは思いますが、宜しく願います。更に、独居・高齢者世帯の入院の場合、家族（特に高齢である場合）が病状説明を受けても理解できないでいる場合があります。そこにケアマネジャーや訪問看護師と一緒に聞いたり、支援できたら良いと考えています。これらの課題ですね。

今後、在宅での看取りが増えていくでしょう。「利用者の願いを叶える」「生を全うできる地域作り」も我々に課せられた課題ではないでしょうか。そんなことを日々思いながら、お互いに連絡のとおりやすい方法も検討する必要があります。あると感じています。



いざというときは、りんりに看てもらいたい！
そんな地域の声が青空に響きます。



玄関先の手作りのおもてなしに、目を引かれます。



関わった事例で心に残ったこと

コロナによる最初の緊急事態宣言が出ていた中、40歳代で余命わずかと言われている方でした。最期の時間を、那須の実家で過ごしたいという思いを叶えるため、関西から新幹線を利用し帰省されることになりました。

脳腫瘍のため、急変するリスクが高いことから、到着駅で待機していました。

関西の駅を出て、新幹線の車内から「SP02が低下している、無呼吸が出ている」と連絡が入り、直ぐに医師に連絡し、酸素の業者にも連絡しました。

駅では看護師をはじめ、ケアマネジャー、酸素業者、福祉車両の方、薬剤師が待機しました。

到着時にバイタルチェック、酸素装着し、福祉車両の方に構内から移送していただき、無事安全に実家に戻ることができました。

それからは、連日の訪問が行われました。フェイスシールド、マスク、ガウン、手袋が手困難の中、どうか調達しながらコロナ感染のリスク回避のために着用し対応をしました。

暑い時期だったので、ガウンの中はサウナ状態だったことが思い出されます。

ご両親も毎日、懸命のケアを行っていましたが、3週間後に旅立たれました。ご両親は、息子さんを亡くされ

て、辛く寂しい思いでいらっしゃるのでは・・・と考えていましたが、後日訪問した際には、笑顔で「息子の思いを叶えられて幸せです。帰って来られるか不安でしたが、こんなサービスがあるなんて知らなかった。皆さんのおかげです。」との声を頂きました。

看護師として、ご本人や家族の希望を叶えることに携われた喜びと、医療・介護・福祉連携の重要性、その思いが一つとなった時の力強さを、再確認しました。

看取りは悲しいだけでなく、喜びも含めて願いを叶えること、家族を最大限支援することです。私達も、一生懸命関わるあまり、がんじがらめになってしまつことがあります。「この位でいいよねー」も大切です。

ご本人や家族が決めていたことが揺れ動くのは当たり前です。その思いを柔軟に受け止めながら、寄り添う看護を目指して欲しいと思います。



豆記者

ステーションの名前は、りんりんと心に響く看護という願いを込めてつけられました。



鈴の看板→と赤いポスト↑が道しるべ

